

AKI - AMAGASAKI - AOI - AOYAMA  
THE YEAR OF 10TH ANNIVERSARY  
ASHIYA - BIWAKO - CHIBA - CHIGUSA  
EAST KOBE - FUKUYAMA - GIFU  
HAMAMATSU - HANSHIN - HEIAN  
HIDATAKAYAMA - HIGASHIYAMA  
HIMEJI - HIROSHIMA - HOKU-  
SETSU - IZUMO - KANSAI



# JAPAN REGION

KASHIWA - KITA OSAKA - KOBE  
KONAN - KURAYOSHI - KYOTO - KYUSHU  
MAIKO - MATSUE - MEIJO - MIKAGE  
MINAMI OSAKA - MIYAKO - NAGOYA  
NARA - NIRASAKI - NISHIKI  
NISHINOMIYA - OITA - OKAYAMA  
OKAYAMA AKURA - OSAKA - ROKKO  
SAKAE - SAKAI - SAKAIHIGASHI - SANDA  
SATURDAY - SENRI - SHIRASAGI  
SHIROKITA - SUNDAY - TAKARAZUKA  
TEZUKAYAMA - TOKATSU - TOKYO

**Vol. 10, No. 4, July 1992**

TOTTORI - TOYONAKA - TSUKUBA  
UMEDA - YONAGO - YONAGO MONDAY

# INTERNATIONAL TRAINING IN COMMUNICATION

## 目 次 Contents

I T C 会長メッセージ .....	Message from ITC President	1
第10回リージョン大会基調演説 .....	President's Keynote Address	2
日本リージョン第11期選出役員 .....	Japan Region Officers for 1992-1993	3
選択とビジョン .....	Choices and Vision	4
日本リージョン年次報告 .....	Japan Region Annual Report	6
日本リージョン会則修正 .....	Amendment of Japan Region Bylaws	8
日本リージョン事務局年次報告 .....	Japan Region Office Annual Report	10
委員会報告 .....	Committee Reports	11
表 彰 .....	Awards	14
事務局だより .....	News from Japan Region Office	15
日本リージョンスピーチコンテスト .....	Japan Region Speech Contest	16
世界のリージョンから .....	Regions around the World	20
第10回リージョン大会スナップ .....	10th Region Conference	22
大会を終えて .....	Message from Conference Coordinator	23
新しいクラブです .....	Congratulations!	24
Q & A .....	Q & A	26
編集後記 .....	Editorial Note 裏表紙	

June 1, 1992

Anita L. Henzler, ITC President

Please express my appreciation to the members of the Region, as well as the Board of Directors, for the warmth of friendships and courtesies extended to me. I thoroughly enjoyed my stay in your country. Every time I wear the lovely brooch, it will bring fond memories of the members and the 10th Anniversary Celebration.

kindest regards.



ITC 会長 アニタ L. ヘンスラー

日本リージョンメンバーの皆様と役員の皆様に。  
私への温かい友情と、おもてなしに対して心から感謝いたしております。貴国での滞在中は大変楽しい  
ときを過ごすことができました。  
美しいブローチをつける度に、メンバーの皆様や、  
10周年のお祝いのことを思い出すでしょう。  
ほんとうにありがとうございました。

ミッションステートメント(使命声明)

ITCの使命はコミュニケーションと指導力に於いての質を向上させるための機会を、すすんで提供し、社会を導いていくところにある。

1991年10月26日 ITC役員会にて採択



リージョン会長  
常 田 道 子

すべてのものに生命があるように、組織にもそれがあります。生命にはそれを生む人だけで育てる人が必要です。日本リージョンも多くの方々のお力によって育てられ、ここに設立10周年を迎えることになりました。

10年という年月は、無為に過ごせば長い日々と思われるかもしれませんが。でも目的を持ってひたむきに取り組むとき、それは少しも長くは感じられません。1日24時間、すべての人に平等に与えられた時間をどのように過ごすかは、その人の選択にかかって参ります。私達は、自らの意志でITCのメンバーになることを選び、生きた時間の使い方を考えるようになりました。これは価値ある選択です。

その昔、話すことよりも黙っていることの好きな女の子がいました。大人になっても無口なまの主婦であったかもしれません。あるとき、ITCの存在を知りました。そして会員になり13年が過ぎました。ITCは彼女に何をもたらしたのでしょうか。視野を広げ、考え、行動することを体験しました。学ぶことの楽しさを知りました。皆様の前でお話しができるようになりました。そうです。もう皆様御気づきでしょうか。それが私です。

人は人によって磨かれると申します。人との出会いそのものが人生であり、教師であり、そこに学びの機会が生まれます。ITCは、自分以外のすべてのの方々から実に多くのことを学ばせて頂ける素晴らしいグループではないでしょうか。

今、日本の現代社会が直面している問題の一つに、教育があるといわれております。学校教育のみが教育であるという考え方は変って参りました。もっと形を変えた様々な学習がある、社会教育、生涯学習など学ぶ側の自主性や個性、そして社会との密接な関わりを持つことの重要性が問われつつあります。これは日本のITCの課題につながるものでもあります。

あらゆる行動の元に温かさがあり、思いやりのあることが私達のコミュニケーションの原点であり、又時代の要求するものであるといえます。科学の面でも、21世紀には人の心にプラスするようなテクノロジーが発達するであろうと期待されているそうです。

文部省の生涯学習審議会の中間報告によれば、人生を豊かにするために生き甲斐を見つけたり、自己実現のための学習など多面的な教育が求められているといえます。いわばITCは、時代に先駆けて自己啓発に取り組んでいるといえましょう。

私達は、生きているあかしとして、知的好奇心を燃やし続け、共に喜びを持って歩み続けてゆきたいものと思っております。

Michiko Tsuneda, President of Japan Region

Everything has a life force. So it is with an organization. Once we are created, once we exist, it is people who daily help us breathe; who daily help us grow.

The Japan Region has grown with the help of many people, and today we are here to celebrate its 10th anniversary. If one spends time without purpose for 10 years, it may seem long, but, if one has goals and works hard at them, 10 years seems very short.

Each of us is given a day composed of twenty-four hours. How we spend this given time is all our personal choice. We are here today, of our own free will, as ITC members. What a valuable choice we have made!

Once there was a very shy, quiet girl. This girl could have grown up and become a shy, quiet housewife. But one day she found the existence of an organization called ITC, and became a member. Thirteen years have passed since she joined the organization. What has happened to her? A whole new world has opened up to her, and she has come to know the joy of learning. Her dimension of life have expanded as she has learned to develop her thinking process and to put her thoughts into action. Now she has become able to address audiences. You might have already guessed it—this person is me!

It is said that we can polish our personalities with the help of other people. Life involves meeting many people. We are given opportunities to learn from each one of them. ITC is a wonderful organization and gives us opportunities to learn from each other.

One of the problem we are facing in modern day Japan is education. Our idea that traditional school education is the only way to learn is changing.

People are learning the importance of teaching youngsters social skills so that they can communicate within their communities as well as self-motivation skills so they can enjoy the process of life-long learning and growth. These ideas are in keeping with our goals at ITC.

In the times in which we live, caring, warm communication is highly valued and necessary to ensure the success of our endeavors. It is said that the new technology which will be available in the 21st Century will help to enhance and expand people's minds. According to the Mid-Term Report from Life-Time Learning Council of the Ministry of Education, multi-dimensional education is a requirement for the future in order to enhance life and encourage objectives and expand horizons that will lead to self-fulfillment and enrichment.

It can be said, therefore, that ITC is a trend setter for self-enlightenment that is consistent with our current goals. It is my wish that we continue to keep the flame of intellectual inquisitiveness burning, thus expanding our intellectual growth, finding joy in the experience and giving proof to our life force!

Thank you.

ITC日本リージョン第11期選出役員  
Japan Region Officers for 1992-1993

テーマ：豊かな心でよりよい明日を

会 長	星 野 佐 登 ( 葵 )	次期会長	伊 庭 文 子 ( 阪 神 )
第一副会長	今 井 千 代 子 ( 青 山 )	第二副会長	豊 島 知 子 ( 名 古 屋 )
書 記	近 藤 み ほ 子 ( 葵 )	会 計	田 口 邦 子 ( 錦 )

I T C会長 アニタ L. ヘンスラー

1991年2月、私はリージョン会長及び直前会長（現在の会長）に手紙を出し、継続することの重要性を強く訴え、計画と目標設定への団結をお願いしました。その手紙から引用してみましょう。「今日のような変化の激しい世界において、挑戦したり競争したりするためにも、また反応することよりも先んじて行動を起こすことの必要性のゆえにも、もはや私達は毎年同じ事を繰り返しながら、計画を立てるのに会期が始まるのを待つというような余裕はないのです。多くの場合、計画が丁度始められる頃に会期が終わり、計画は中断され、素晴らしい発案や意見も葬り去られ、新役員会が発足することになるのです。これでは本質的には我々はどこにも車輪を進めていくことは出来ません。」

今やこれらの目標や行動計画を見直し、必要があれば時代に即応したものに変わって行き次期への準備にかかるべき時なのです。

私は会員に質を高める訓練を行い、それでいてI T Cの組織を強固にするということは、マネージメントの訓練であると固く信じています。I T Cは訓練を行う組織であり、我々はメンバーに「実際の社会」で役立つマネージメントの技術を提供しています。もしそうであれば、私達が習得する技術はこの組織の中でのリーダーシップやマネージメントに役立たせるためのものでもあるといえるでしょう。

会則にも述べられているように、I T Cの目的は(1) 会員個人の技能向上のための教育メソッド、資料、機会の提供、(2) 全クラブの活動の統合、(3) 新しいクラブの設立、にあります。

I T Cのトレーニングプログラムは広範囲に及びクラブより始まります。

例えば、話す技術はどのようにして高めれば良いのでしょうか？ クラブのプログラムに参加したり、カウンセルやリージョンの例会に出席し、参加したり観察することにより可能でしょう。

参加がキーワードだと考えて下さい。あなたに選択権があるのです。もしあなたが役員として奉仕し、指導力を発揮し、より磨きをかけたいと思えば、あなたはその道を選ぶことができます。スピーチコンテストやライティングコンテストに参加したり、カウンセル会合や、リージョン大会に出席したりするのもあなたが選択権を持っているのです。あなたの参加の度合いにより、身につくものが決まります。それはあなたが選択するのです。

I T Cの目標の3番目に関しては、会員が新会員を集めたり増設の仕事をしたりするように要請されるが、それは訓練の中に入るかどうかは疑問があるということをお聞きしたことがあります。私は皆様方に、「I T Cはあなたの人生においての必要に応じてくれていますか？」とおたずねしたいとおもいます。もし応えてくれているとして、私達会員が新会員を補充していかなければ、訓練を与えてくれるI T Cと言う組織は存続できるでしょうか？ そうです、会員を集めることさえも、セールスの手腕、聴くこと、組織作りの才能、コミュニケーションの向上に繋がる訓練となりましょう。

国際役員会はこの組織を愛し、この組織のために長い長い時間働いているボランティアの会員で成り立っています。それも私達の選択によるものでした。I T C役員会は常に、I T Cの目的を遂

行するために、細心の注意を払った運営、指示、教育及びマネージメントのための機材を会員に提供するように心掛けているということ、はっきりと申したいと思います。

私はITCがその目的を見失ったとは思っていませんが、私達は他の全ての奉仕機関やプロフェッショナルな組織が直面しているその同じ苦しみ、すなわち時間の制約、拘束、競争、という難問を抱えていることは事実です。それゆえに、私達は絶えず自分たちのプログラム、そのできばえ、まとまりを評価し、必要に応じて改善し、費やした時間に見合う価値あるものを得ることができるようすべきです。私達はまずクラブのプログラムに目を向けなければなりません。というのはそこが出発点だからです。もし会員がクラブのレベルで自分たちの必要を満たす訓練を受けることがなければ、他のレベルが提供してくれるものをみるためにとどまるということもないでしょう。次に私達は、自分たちがおこなうことを個人として、チームとして、みるべきです。そこには統一がないといけません。そうでないと組織はその目的を達成しようと纏まることなく、もがき苦しみながら進むこととなります。

国際レベルでは指示を出したり教育手段を提供したりしますが、それらを実際に陣頭にたって使うのは各会員なのです。

10月の役員会で次ぎのようなミッション・ステートメントが採用されました。

『ITCの使命はコミュニケーションと指導力においての、質を向上させるための機会をすすんで提供し、社会を導いていくところにある』

即ち、(1) 会員が最も興味を持つように組織を管理し指示する。(2) 質を向上させるためのプログラムを開発する。(3) 効果を上げるためにリージョンに権限を与える。

私達はビジョンについても語り合いました。それはITCのあらゆるビジネス分野で認められるようなプロフェッショナルなイメージを持った最初の訓練機関として、世界的に認識されるものにしたというものです。ビジョンはミッション・ステートメントでもゴールでもありません。私は皆様方にあなたのITCビジョンを創られることを要求します。

ビジョンを創る時には、次ぎのような点を考慮して下さい。

- ▲ビジョンは人間にとってより価値のあるものを成すためにある。
- ▲ゴールは実際的で合理的なものである。ビジョンはそうではない。
- ▲ビジョンは常に何か大きなものである。
- ▲ビジョンは我々の価値観や自分がそれに貢献したいと思うものの現れである。
- ▲ビジョンは方向性を備えた進展を意味する。
- ▲ビジョンは我々に伸びることを要求する。
- ▲ビジョンとは大きな目的を持って理想的で好ましい未来を創り上げるようなものである。

立派なビジョンは手を広げて待っていれば得られるようなものではない。マネージメントコンサルタントであるジェームス・メイブス氏は「ビジョンというものは、そのビジョンに生きようと思う人により協力して創られ、細工され、形を整えられるものである」とも言っています。

ご一緒に、ITCへのグランドビジョンを創ろうではありませんか。団結して、共に学べば私達の明日への計画や夢は実現のものとなるでしょう。

ITC COMMUNICATOR Vol. 7/No. 3 藤原栄子訳より抜粋

書記 佐山 昌子

日本リージョ ン第10期役員会は、会則・役員会方針に基づき、常田会長のテーマ「理と真と」に沿って、理性的で暖かく、論理的で誠実にをモットーに次の目標の達成をめざして活動した。

- ・短期目標
  1. 組織としての伝達技術の向上。
  2. クラブの充実を推進する。
  3. 社会参加活動の奨励。
  4. 10周年記念事業
    - a. ビデオ制作
    - b. 沿革史発行

役員会は合計6回招集され(通信役員会は10回)全クラブ宛リージョ ンメールは5回発送した。カウ ンシルへの公式訪問は原則として今期は年1回とし、8カウ ンシルを役員が訪問した。なお、特に要請のあったカウ ンシルには追加訪問をおこない、カウ ンシル宛インフォメーションを毎例会に送った。

日本リージョ ンは設立10周年に当たり、PREM活動を兼ねて記念事業を計画、VTRの制作と沿革史の編纂を行なった。ビデオは遠隔地の増設やPR、オリエンテーション等に役立つものとして、専門家の技術提供を受け完成、各カウ ンシルに配布した。沿革史は、日本にITCが設立されてからの43年間の歴史を編纂し発行、全会員に配布される。これらの制作は10周年記念事業委員会としてプログラム・教育は主にVTR制作、広報、増設、編集の合同プロジェクトチームによって成し遂げられたものである。

日本リージョ ンは今期8カウ ンシル、63クラブでスタートした。長期目標である質の高いクラブの増設をめざし、増設委員会が活動。三田クラブの7月22日を含み、瀬戸内クラブが1992年2月7日、刈谷クラブが2月12日、とっとり砂丘クラブが4月23日、鴨川クラブが5月19日認証され、所属するクラブ数は合計67クラブとなった

会員委員会の報告によれば、5月19日現在の日本リージョ ンの会員総数は1,751名である。

その他委員会の主な活動状況としては、

- ・資格認証委員会は、各クラブに対し認証過程に参加することを奨励し、例年通りリージョ ン大会に於いて、最 多 得 点 の ク ラ ブ を 表 彰 す る こ と と し た。
- ・会計監査委員会は、1月31日、年度半ばに観察を行い全体把握がなされた。
- ・予算・財務委員会は、3月始め日本リージョ ン通常会計補正予算を作成、役員会によって承認された。
- ・広報委員会は、リーフレットの見直しをおこない、2種のリーフレットを印刷。朗読研修グループの活動及びそれぞれの地域社会における積極的な活動報告を受け、対外広報の資料とした。
- ・出版委員会は、今期新しい11の資料を出版した。再版及び改訂版は、30種類取り扱った。その他も引き続き翻訳中である。
- ・スピーチコンテスト 新規則と任務は8月に、ライティングコンテストの規則と任務は11月にそれぞれ翻訳、印刷され全カウ ンシル、クラブへ配布した。
- ・ライティングコンテストは、初めて行われ、日本語のみ、11篇の応募があった。優勝者の氏名はITC大会で発表される。
- ・日本リージョ ン事務局は、増大する事務処理に対処するため、庶務部に1名人員を強化、リージョ ンの業務部門の円滑化において、その任を果たした。
- ・マスターマニュアル日本語版は、2年の歳月をかけ、翻訳、出版の集中的活動により完成、発行された。これにより、入金金の内、10ドルがマスターマニュアル印刷費としてITC役員会により認められることになった。
- ・長期計画研究委員会は、将来の展望をもって、ITCの日本国内での社会性の確立について検討した。又リージョ ンの分割は地域的バランス上、暫くは見送る事とした。

CMTは、1991年11月8日京都タワーホテルにおいて開催、合計13部門の研修が行われた。出席者105名。

1992年5月25日ホテルニューオータニ大阪において、公式訪問者ITC会長アニタ・ヘンスラーを迎え、RMT・CMTを開催、次期役員及び次期委員長の研究が行われ、80%以上の委員会の参加があった。今年度RMTは合計4時間、CMTは8時間おこなったことになる。

## ITC Japan Region 10th Annual Report (1991–1992)

Masako Sayama, Secretary of Japan Region

We, the officers of the Japan Region 1991–1992, have been working towards the following goals in line with the bylaws and the board objectives.

Goals for the Term:

- (1) To improve communication skills as an organization
- (2) To substantiate the individual clubs
- (3) To encourage taking part in society
- (4) 10th anniversary project: a) video production; b) commemorative publications

Six board meetings have been held (ten meetings by mail) and all-club mailing was sent out five times. One official visit was made to each of the eight councils. Information for Councils was mailed for every meeting, and further visits were made when so requested by the Councils.

Combined with PREM activities, Japan Region has planned for its 10th anniversary celebrations, video tape production and a commemorative publication. This professionally produced video has already been completed and distributed to all councils. It should prove valuable in remote areas for use in extension, promotional activities, orientation, and much more. A chronicle of the forty-three year history of Japan ITC, the commemorative publication shall be distributed to all members. These productions have been achieved by the 10th Anniversary Project Team, a joint team consisting of the program, education, extension, editing and promotion committees.

Japan Region started the year with eight councils and sixty-three clubs. With our long-term goals, developing new clubs of high quality, the extension committee went to work. Adding our newly chartered clubs, Sanda Club: July 22, 1991; Setouchi Club: February 7, 1992; Kariya Club: February 12; Tottori Sakyu Club: April 23; Kamogawa Club: May 19; our Region now counts sixty-seven clubs.

As of May 19, 1992, the membership committee has reported the total membership of the Japan Region as being 1,751.

The main activities of the other committees are as follows:

- Accreditation: Members have been encouraged to participate in the program. The club with the highest total points shall be rewarded at the Region Conference, as has been done annually.
- Audit: A survey was held mid-term on January 31 to grasp the present situation.
- Budget/Finance: A supplementary budget was submitted in early March and approved by the Japan Region board.
- Publicity: Upon reviewing the present leaflets, two types were printed. Activity reports received from the Oral Reading Group and other community activities were filed as external publicity material.
- Publishing: Eleven newly translated materials were published. Thirty additional printings and revisions were executed. There is more currently undergoing translation.
- Speech Contest: The new rules and duties were translated, printed and distributed to all councils and clubs; the Speech Contest in August and the Writing Contest in November.
- Writing Contest: There are 11 entrants (all Japanese) for our first Writing Contest. The winner will be announced at the Conference.
- Japan Region Office: A member was added to handle the ever increasing clerical work. The office has achieved its aim to manage the business affairs of the Region.
- Master Manual (Japanese Version): Under the joint effort of the translation and publishing committees and two years of hard work, this manual has finally been completed and published. The ITC Board of Directors has approved that \$10.00 of new member fees will be applied to the publishing expense.
- Long-Term Planning: Establishing ITC's social standing in Japan was discussed. Dividing our Region was postponed, needing further consideration on where the border should be drawn.

Thirteen various workshops were provided for the 105 members that participated in the CMT held at the Kyoto Tower Hotel on November 8, 1991.

With ITC President, Anita Henzler as an official visitor, RMT and CMT were held at Hotel New Otani Osaka on May 25, 1992. A total four hours of RMT and eight hours of CMT were held for this year's incoming officers and committee chairmen of which over 80% were attending.

# 日本リージョン会則修正

# Amendment of Japan Region Bylaws

会則・決議委員長 後藤 俐 奈

日本リージョン会則及び常規は、第10回日本リージョン大会において下記のように修正され、1992年8月1日より有効となります。

1. 会則 第3条 会員 C項 境界線：
  2. 境界線再設定については、ITC国際役員会が、実施日の1年前に開かれるリージョン大会までに、新しい境界線を役員会に通達する。但し、所属クラブの投票により、事前通達が破棄された場合は、この限りではない。  
境界線再設定は、リージョンがその通達を受けた次の会計年度に終了し、次会計年度始めに有効となる。境界線再設定の手続きはITC国際役員会の指示による。
2. 会則 第3条 会員 C項 境界線：
  3. 境界線再設定によって影響を受けるリージョンの所有財産は会計監査後、関係境界線内の有資格クラブ数に比例して分配される。
3. 会則 第4条 財務
  - A項 このリージョンは独立会計とする。但し、増設及びリージョンスピーチコンテスト優勝者がITC国際大会に出席する費用の一部は、可能な限りITC本部が支払う。
4. 会則 第6条 任命役員 B項 任命役員の任務：
  1. 議会法規役員は
    - a. 要請に応じてリージョン会長に議事進行方法について助言する。
    - b. リージョン役員会の要請がある場合には役員会に出席する。
    - c. リージョン大会に出席する。
    - d. 役員会の要請に応じ他の任務を果たす。
5. 会則 第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務 4. 会則・決議 (f及びgを付加)
  - f. リージョン役員会及びリージョン議会法規役員と共にITC年次大会に於て採択された修正箇所を確認し、リージョン会則に組み入れられた結果をリージョン会報に掲載する。
  - g. ITC本部が毎年年度始めに発行する全レベルの標準会則を前年度と比べ変更箇所をリージョン会報に掲載する。
6. 会則 第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務 7. 増設：増設委員長は
  - f. リージョンの予算には、増設に関する費用を計上されるが、その費用は、ディビジョン副会長に割り当てられているITC資金で補助される。
7. 常規 2. 年会費：

年会費は会員1名につき4,000円とし、年4回発行されるリージョン会報代及びITC日本事務局運営費を含むもので、8月1日またはそれ以前にクラブによって支払われるものとする。  
2月1日または.....
8. 常規 7. ITC日本リージョン事務局(ITC JAPAN REGION OFFICE) C. 4)
  - (2) 1991-1992年度ITC国際役員会の認可に基づき、入会金20ドルの内10ドルをマスターマニュアル日本語版の印刷費として積み立てるために事務局口座に送金する。

下記の決議が採択されました。

決議

日本リージョンの10周年に当たり記念事業として、日本におけるITCの沿革史を編纂しつつあるが、これは日本におけるITCの発展の歴史として、将来にわたり永久保存記録と

なるものであるゆえに：

会員が、自らの所属する組織の歴史を知るために、現会員すべてに配布されるべきものであるゆえに：

この作成費は、通常会計から賄うには負担が大きすぎるゆえに：

そして、確実な運用によりその額が漸増している基金から補助し、会員に還元するのが適切であると考えるゆえに：

10周年記念沿革史の作成費として、リージョン基金から60万円を補助することを決議する。

**Lina Gotoh, Bylaws & Resolutions Committee Chairman**

Japan Region Bylaws and Standing Rules were amended at the 10th Japan Region conference as follows:

#### **JAPAN REGION BYLAWS**

1. ARTICLE III. MEMBERSHIP, SECTION C. BOUNDARIES, 2

2. ARTICLE III. MEMBERSHIP, SECTION C. BOUNDARIES, 3

3. ARTICLE IV. FINANCING, SECTION A

1, 2 and 3 are already written as the amendments in the Japan Region Bylaws in English.

4. ARTICLE VI. APPOINTED OFFICERS, SECTION B.

DUTIES OF APPOINTED OFFICERS, 1.

Amend by striking out paragraph "d" (the present "e" to become "d").

5. ARTICLE IX. COMMITTEES AND THEIR DUTIES, SECTION B.

DUTIES OF STANDING COMMITTEES, 4.

Amend by adding new paragraphs "f" & "g".

f. Verify with region board and parliamentarian the amendments in the Bylaws and Standing Rules adopted at ITC convention; print in Region magazine provisions as automatically amended as a result.

g. Be responsible for printing in the region magazine changes of Standard Bylaws at all levels published by ITC headquarters at the beginning of each term.

6. ARTICLE IX. COMMITTEES AND THEIR DUTIES, SECTION B.

DUTIES OF STANDING COMMITTEES, 7. f.

This is already written as the amendment in the Japan Region Bylaws in English.

#### **JAPAN REGION STANDING RULES**

7. STANDING RULES 2. ANNUAL DUES

Amend by striking out, "before August 1" and inserting "on or before August 1".

Annual dues shall be ¥4,000 per member, covering the cost of the region magazine issued four (4) times annually, and the operating expenses for Japan Region Office, payable by clubs on or before August 1. Members joining on or after....

8. STANDING RULES 7. ITC JAPAN REGION OFFICE C. 4) (2)

Amend by substitution.

(2) Retain ten dollars (\$10.00) of the twenty dollar (\$20.00) new member fee for the purpose of printing Master Manual in Japanese, in compliance with the permission granted by 1991-92 ITC Board.

#### **RESOLUTION**

**WHEREAS**, We are tracing and recording the birth of ITC in Japan to celebrate our Tenth Anniversary, which will be a permanent record as a history of the development of ITC in Japan in the future; and,

**WHEREAS**, Copies of the commemorative volume should be distributed to each and every member in order to know the history of our organization; and,

**WHEREAS**, Publishing expenses are too much to be covered by the Region General Account Budget; and,

**WHEREAS**, We consider it appropriate to pay a part of the expenses from Japan Region Fund for the benefit of the entire membership; therefore.

**RESOLVED**, That publishing expenses of our Commemorative Tenth Anniversary History, in amount of ¥600,000, shall be paid from Japan Region Fund as a part of the total expense.

# 日本リージョン事務局年次報告 Japan Region Office Annual Report

事務局長 新木 昌子

日本リージョン事務局の1991-92年度の年次報告を致します。事務局が正式に運営を開始してから3回目の報告になります。今期も例年通り翻訳、出版、資料の販売、経理の業務を行ないましたが、これに加えて庶務部を強化して事務処理に当たりました。

翻訳部は今期中旬約3ヶ月入院されたにも関わらず、土居和子翻訳委員長の指揮のもとで27名の翻訳登録者は新しい教育資料を11種類翻訳し、コミュニケーターの記事の翻訳を年4回発行する小冊子のために提供しました。10月と4月のITC全クラブメーリングの翻訳、またその他リージョン役員会の要請に応じてフル回転で今期の翻訳を完成しました。

マスターマニュアル特別委員会はマニュアルの翻訳が完了したものを引き継ぎ、土居和子さん、竹内宏子さん、徳橋八重子さんと新木昌子の4人によりマニュアルのレイアウト、言語の統一、文書の編成、200頁の校正を3回以上も入念に行ないました。そして、1992年4月1日に約2年間もかかりこの大事業を完成させ会員の皆様に新しいマスターマニュアルを提供することができました。

出版部の村上令子委員長は今期予定以上の出版を取り扱い、新版の教育資料の「ITCクラブを設立しましょう、会合の企画者のためのハンドブック、資格認証過程、伝達技術の向上、表彰のアイデア、広報とその目標、自己表現、スピーチダイナミックス、今日の話のヒント、継続会員活動委員会、ライティングコンテスト規則と任務」の11種類、アップデートしたもの7種類、在庫数を補充するためのもの27種類もの近年にない大量の出版物の発行を行ないました。

資料部は村田葵子委員長を先頭に各カウンスルのご協力のもとでカウンスルの資料委員が誠意をもって資料の販売にあたり、今期の売上予算を遥か上回りました。今年は一つ新しい物品、カラーファイルを5枚1組¥250で扱いましたところ大変人気があり再三仕入れて会員に親しまれる資料になりました。資料と物品の管理及びその販売には充分気を使い年一度の棚卸は毎年期末に行なわれます。

今年から庶務部を確立し、徳橋八重子さんが事務一般を担当して、今期はリージョンメールの発送業務を5回、会員名簿の印刷と発送、それに主として教育マニュアル/マスターマニュアルの管理と発送等をこの一年間たゆまなく、責任を持って行ないました。

経理部の伊藤孝子さんはクラブ会計と密着した業務を行い、殆ど毎日どこかのクラブからの送金とその書類等の確認で多忙の一年でした。事務局の運営収支の業務はもとより、クラブからの新入会員の入会費や会費と物品の代金のITC本部への送金の依頼等、非常に複雑な経理を誠実に行いました。毎月報告書をリージョン会長と会計に提出しています。

以上の業務はリージョン役員会の指示に従い行なったものです。今期の各部門の関係者の奉仕の精神と熱意によりこの一年間の業務遂行の責任を果たすことができ事務局長として心より感謝致します。また、過去三年間事務局長として勤めさせて頂きましたことは一重にリージョン会員の皆様のご理解とご協力によるものと厚く御礼申し上げます。そして、私の後任者にも私と同様にご協力頂きますようお願い致しまして事務局の年次報告を終わります。

増設委員会

増設委員長 泉 和子

◎ ITC本部の増設基準は6月7日より5月31日迄に認証されたクラブを以てその期の増設活動となります。従って昨年6月以降に認証されたクラブは次の通りです。

- No.6 琵琶湖クラブ 認証No.3528 6月1日 会長 日片ミヨ子 委員長 野村美智子
- No.8 韭崎 クラブ 認証No.3529 6月3日 会長 飯野志津子 委員長 後藤 侗奈
- No.1 千種 クラブ 認証No.3530 6月10日 会長 鈴木 宏子 委員長 鈴木 宏子
- No.2 三田 クラブ 認証No.3534 7月22日 会長 曾山 綾子 委員長 伊庭 文子

◎ 今期の増設計画とその手段と成果

※リージョン会長の方針に従い「質の高い増設」を目標とし各委員長に協力を依頼した。

※期限内の2回のCMTを無駄にせぬよう委員長が研修内容を十分把握することに努力した。

※会員委員会との相互協力を現実に実践した結果各カウンスルの会員増加に寄与出来た。

◎ 今期の増設経過

No.1 刈谷クラブ 認証No.3546 2月12日、会長、市川 文子。委員長、野村 弘子  
式典 4月8日 チャーターメンバー30名、日本で64番目、三河地区初のクラブ。

No.2 年令層の若い有職者が集まったがユニット結成には至らなかった。

若年層と有職者の入会希望者を対象とした増設活動の方法の工夫が必要である。

No.3 会員委員会と協力の結果各クラブの会員が充実したので後期より明石方面で活動を開始したが今期はあくまで土台作りで次期に申し送る予定である。

No.4 瀬戸内クラブ 認証No.3545 2月7日 会長、三村 悦子。委員長、山崎 鈴子  
式典 3月28日 チャーターメンバー30名、日本で63番目、福山市二つ目のクラブ

No.5 カウンスル会長の方針の下、今期は増設は行わず、既存のクラブ会員の増加に協力することに力を注いだ。

No.6 鴨川 クラブ 認証No.3552 5月19日 会長、中村 慶子。委員長、皆藤 幸子  
式典 7月13日 チャーターメンバー24名、日本で67番目 現在一番若いクラブ

No.7 とっとり砂丘クラブ 認証No.3551 4月23日 66番目 委員長 太田千世子  
式典 6月29日、チャーターメンバー28名 会長、石破 佳子。鳥取2つ目のクラブ

No.8 横浜地区の増設を考慮中であり、来期は活動を開始出来る見通しである。

長野方面も考えないでは無かったが、距離と費用の関係で実現は難しい。

◎今後の課題と次期への申し送り事項

※遠隔地の増設の為の費用の捻出方法を早急に考える時期が来ている。

※来期四国方面の増設が望まれている件につき、増設活動の面で委員編成に考慮が必要と考える今期の各カウンスルの増設委員長の活動はめざましく、その努力に感謝の意を表わすと共に今期出来上った8クラブの順調な成長を心から祈ります。

5月25日、ホテルニューオータニ大阪で開催されたRMTにおいて、ITC国際会長アニタ L. ヘンスラーは、日本リージョンは世界のリージョンの中のexceptionであるとおっしゃいました。というのは減少し続けている他国のリージョンをしり目に今期、4クラブが増設されて225名もの増員があったからです。日本リージョンは実に、67クラブ1,751名となり昨年に引き続いて会員数において世界一です。各クラブ、カウンスルの活動状況から判断して我リージョンは数においてだけではなく質においてもナンバー・ワンだと確信しています。

もう一つ明記しておきたいことは、各クラブ、各カウンスル、リージョンの会員委員会として、各年ごとの会員数を記録し、永久保存用の記録としていただきたいという事です。書式はクラブ、カウンスルにお渡ししております。

日本リージョン10周年沿革史のための会員数の把握に際してはクラブ各位のご協力をいただきましてありがとうございました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

## プログラム・教育委員会

第一副会長 木 下 あつ子

第10回日本リージョン年次大会は、出席された皆様方のご理解とご協力のお陰で、盛会裡に終了することができました。皆様からいただきました評価を、プログラム-教育委員会でまとめましたのでご報告いたします。(ご協力枚数198)

- 全体の評価 ・質が高く、素晴らしい大会だった ・ワークショップが充実していた  
 ・旧交をあたため、新しい友人が得られた ・多くの会員が集まり感激した  
 ・ITCの活力を感じた ・一人でも多くの参加を勧めたい
- 一番印象に残ったこと ・日本語のスピーチコンテスト(41)  
 ・国際会長が来られたこと(20) インスタレーション(4)  
 ・ワークショップ(22)  
 ・晩餐会(13) 三番叟(6) 独唱(5) 新木さんの表彰、歴代会長の紹介(3)  
 ・会場(10) ・ホステスカウンスル会員の笑顔、心のこもった接待(4)  
 ・スムーズな運営(3) ・ビジネス(3) ・大会冊子の表紙(3)  
 ・会長の基調演説(2) ・会長の笑顔(2) ・会員の協力(2) ・その他
- 開 会 式 ・クラブ会長の入場行進が不手際だった(8) チャーター順の入場は無理、従来通りカウンスル毎にする方がよい。
- 儀 典 ・各派遣員の席の指定がなかったので、友人のために余分に席をとる人があった。  
 ・表彰者の席は設けた方がよい(時間的にスムーズにいく)  
 ・演台にお花があった方がよい ・会場に飾りがなくすっきりしていた
- ビジネス ・会長の態度がさわやかでゆとりがあった ・今年は時間的に余裕があった  
 ・審議については、よく考えてきたクラブと無条件に賛成しているクラブがあったがもっと考えてくるようにしたい ・派遣員は積極的に意見を出すべきである  
 ・役員に報告が大変とかご苦労などの感想を入れたい方がよい ・長すぎる報告は概要にとどめ、細かい部分は書類にするとよい ・口答による採決は分かりにくい  
 ・ゲスト紹介に個人的な言葉を入れてもよいのか? ・通訳は要約でよいと思う  
 ・表彰は演台の前でするのがよい(演台の後ではフロアから見えない)
- ワークショップ
- 外部講師について  
 ・外部講師を歓迎する(23) ・視野、見聞を広めることができた。  
 ・リージョン大会ならこそ感謝している ・リフレッシュした  
 ・開催地にふさわしい話で大変よかった。これこそITCだという話だった。大変感動した。日本の伝統文化に接した思い。など(38)

・現在の生きた国際情勢の話を直接聞き、大変興味深かった。他(19) もっと聞きたかった。時間が足りない、2時間は欲しい。今後も社会性を考えた講師を希望。  
・専門家の話はためになった ・熟練者のアドバイスは分かりやすい ・期待外れ(1) 会員によるワークショップについて

その他

・十分に準備された、程度の高いワークショップで満足している。他(36)  
・カウンスルやクラブでもすぐに役立つものだった。受けたものをクラブで発表するとよい。 ・変化があってよかった。一日に1つしか選べないのが残念(4)  
・外部講師による講演より、ITCらしくワークショップをするべき(1)  
・マナーの悪い会員がいたのが残念(荷物を置いて席をとっていた。開会されているのに静粛が守られなかった) ・インスタレーションが長過ぎた  
・昼食をフリーにしたのはよかった。 ・忘れ物が戻り感謝している  
・晩餐会、スピーチコンテストのプログラムリーダーがよかった  
ホテル ・広々としてよかった ・宿泊、サービスその他すべて云うことなし  
・食事がおいしかった ・チェックインの時間に不満 ・昼食代が高すぎる。  
・朝食の案内が欲しかった ・サービスが悪かった。

付記

開会式について

10周年を迎えるに当って、チャーター順に入場することは、役員会の意向でした。アナウンスは時間通りにして下さったのですが、スムーズに運ばなかったのは予想外のことでした。役員会としましても反省点は多くあります。

指定席について

今年は役職者への敬意は晩餐会で表し、ビジネスでの指定席は派遣員のみ(ただし一人一人の指定はしない)とし、スピーチコンテストその他では指定席を設けませんでした。被表彰者席も代表者のみにしました。

ITC大会では指定席は派遣員のみであり、表彰者は当日会場で発表されて、本人や周りの人から喚声があがり盛り上がる、と国際会長から伺いました。

沢山のご意見をいただきましてありがとうございました。紙面の都合上、全部は載せられませんが、今後の大会に役立つようにご意見はすべて申し送りたいと存じます。

## ライティングコンテスト委員会

委員長 豊島知子

日本リージョン、ライティングコンテスト委員会はITCの方針に従い、今期はじめてコンテストを実施した。「ライティングコンテストの規則と任務」の翻訳、日本語で応募する方への「募集要綱」の作成から始めスタートが少し遅れ、会員の中にもあまりよく浸透していなかったのも、果して応募者があるかどうか心配したが三部門、フィクション、ノンフィクション、詩に各々、3名、6名、2名の計11名の応募者があり本当に嬉しく思った。今回はすべて日本語で、英語の応募者がなくITCコンテストに参加する事の出来ないのは残念であった。ジャッジも応募者のある事を見極めてから具体的にご依頼したような状態で、ITCについてはすでに良くご理解の三人の方をお願いした。三人共、大変お忙しい中、本当に快くお引受け下さり、期日や規則をよく守って頂き心より感謝申し上げている。きちんとしたフォームもなく、ジャッジの方々、応募者の方々と連絡形式も一つ一つ作っていかねばならないので不安でもあり、手間もかかった。来期はもっと沢山の応募者の、又英語での応募のある事を期待し、今期応募下さった大変熱心な皆様にご心よりお礼を申し上げたいと思う。

※訂正：優勝者作品は、会報掲載に間に合わないため、作品集として作成し全クラブへ送付しましたが、ノンフィクションの部、宇都宮鏡子さんカウンスルNo.1は間違いのためNo.4とご訂正下さい。

会員の皆様には、今期も I T C 基金にご協力下さいまして、委員一同心から感謝申し上げます

会員一般の寄付	1,233,298 円	
内訳	カウンスルNo.1 215,480 円	カウンスルNo.5 172,480 円
	カウンスルNo.2 129,930 円	カウンスルNo.6 145,281 円
	カウンスルNo.3 137,357 円	カウンスルNo.7 162,900 円
	カウンスルNo.4 134,110 円	カウンスルNo.8 135,760 円
インナーサークル	391,500 円(29名)	
「点火」のピン	675,000 円(200個)但し25箇分は2月前に本部へ送金済	
合 計	2,299,798 円	

これを銀行為替16,430ドル(点火ピン25箇分の625ドルは送金済)に替えて5月11日、I T C 本部へ送金いたしましたので、ご了承下さい。(1ドル=134.20円、手数料4,000円)

特に今年は I T C 本部設立10周年を記念し、本部建物の抵当を支払い終えるための「点火」のピンによる寄付が行われました。皆様方の尊いご寄付が I T C 本部において、教育、又本部建物の抵当返済等、有効に使われ、会員のため I T C 発展のためにお役に立ちますことを願いながら、ご報告申し上げます。

表 彰  
Awards

- 20年在籍会員  
石川浩子(名古屋)、小島百合子(阪神)、モグベル・マヒン(阪神)、バルク良子(神戸)、安井絃子(神戸)
- フルメンバークラブ(30人)
 

No.1 葵 栄 名城 ぎふ 刈谷	No.5 大阪 豊中 南大阪
No.2 関西 姫路 しらさぎ	No.6 京都 平安 都 奈良
No.3 岡山 瀬戸内	No.7 鳥取 松江 倉吉 出雲
- クラブ会員数の平均最多カウンスル  
No.6、No.7、(1クラブあたり28名)
- クラブ増設最多カウンスル(6/1以降 5/31)  
No.1、No.6
- 資格認証過程最高得点のクラブ
 

1. 松江 16点	2. 京都 15点	3. 名古屋 10点
-----------	-----------	------------
- ライティングコンテスト 1位
 

フィクションの部	城本 都(大阪)	
ノンフィクションの部	宇都宮 鏡子(九州)	
詩の部	武田 綾子(福山)	

## ご苦労様でした

暫定事務局から事務局設立、そして今日に至るまでの長期にわたり責任あるお仕事に力をつくされました新木昌子さんが事務局長を交替されるに当り、スタッフの皆さんに編集よりのアンケートにお応えいただきました。

## • ご一緒に仕事をされて印象深かったこと

新木さんは事務的にも非常に優れた方でいらっしゃいます。例えば「毎年出版資料過程一覧表」はA4いっぱい枠を作り横16に区切り、資料番号、題目、〆切日、新版、再版などに分けられ、備考には会則をワープロした人の名前まで記入してあります。縦は30に区切られ、会則、資料、教育特集等、発行予定項目が書かれています。各部門の作業が進むにつれ、翻訳資料の英語のタイトルが日本語に変わり、印刷屋に注文した部数、日付、費用、単価等が次第に書き込まれていきます。一目瞭然のこの一覧表は一年間に7枚書き換えられ、進行状況を表わしました。新木さんの若々しい緻密な頭脳に感じ入りました。

## • 新木さんのお人柄、または新しい発見

仕事に関してはとても厳しい方ですが、普段の生活では明るく前向きで、嫌なことがあっても何時までも拘らない器量の大きい方。家庭では本当によきおばあちゃま。夜、電話連絡中にお孫さん達の「おやすみ」の挨拶を受けておられるその声は、優しく慈しみに満ちていて、お孫さんと一緒におやすみになることもあるそうです。そんな新木さんもマスターマニュアル最終チェックに際しては、数日間お孫さん達を寄せ付けず、チェックに没頭して下さった日々がありました。

## • 仕事の上で注意を受けられたこと

4年前暫定事務局として活動していた頃、教育資料の翻訳責任者として初めて新木さんのご指導を受けました。その時の翻訳の中で沢山訂正の朱を入れた原稿を出版部に送ったところ、新木さんより手紙と共にその原稿が送り返されて来ました。手紙には「原稿を訂正されたように清書し直すこと。オリジナルの原稿は清書したもののコピーを添付して、翻訳者に送り返すこと」という指示がしたためられていました。私はびっくりしましたし、その時書いた手紙はITC入会以来最も難しい手紙でした。今でも「〇〇さんの翻訳はいいわね」などとコメントを下さり、いつも私たちの仕事に目を通してくださることを知り緊張します。

## • どのような影響を受けられましたか。

ITCについてこれ程熱意をお持ちの方を他に知りません。又新木さんのことごとくがエデュケーションの様なものでした。報告書の作成、通信連絡上のこと等、むだをなくすことを学びました。そして新木さんとの出会いは、私の最大の喜びであり、こんな素晴らしい機会を与えられたことを深く深く感謝します。

## • これからの新木さんへのお願い

ご経験から多くの知恵袋を持っておられます。会員の皆様でこれは誰に尋ねたらと迷われる時、新木さんはきっと適切な解答を与えて下さることでしょう。いつまでも相談役として会員の支えになってくださいませ。そしてお身体大切に、大切に、大切に、お過ごしください。

アンケートに御協力有難うございました。まことに失礼とは存じましたが、紙面の都合で短かく一つに纏めさせていただきます。ご了承ください。 ( - 編集 - )

## The First Place Speech in English

Subject: Dining Table

Title: Happy Circle



Seiko Suzuki, Kashiwa Club (Council No. 8)

"Children! Dad's back! Come to the circle! Tea is ready!" It's ten o'clock in the evening. I didn't expect to have a family gathering so late at night. I don't care what time it is! This is our new happy family circle around the dining table.

It was ten years ago, when my husband and I had a small house with a tiny garden in the suburbs of Tokyo. We were young parents with two children and we had a dream of an ideal family. To make our dream perfect, we made a shopping list of the furniture we would need. On top of the list was a dining table. I wanted to buy a round-shaped pretty table that symbolized a happy family circle and I imagined the beautiful scene of my family at the table, sharing food and laughing, as you might have seen in the housing commercial on TV. But my husband is a practical man and insisted on buying a large, strong, rectangular table so that we could do many things together around it. His suggestion worked out. The large dining table served us in many ways. I used it for a work space when I made cookies with my daughter. My son used it for his study desk. My husband used it to write out important documents. We used it for a table for two after our children went to bed. My family even used it to play table tennis on rainy days. Needless to say, it performed its original duty as a place to eat meals. Good meals help us relax and share family conversation. We enjoyed small talks and daily happenings. My children learned mom's taste, old family stories, what kind of topics were suitable and not suitable, how to behave and how not to behave at the table and how to care for each other. My husband and I also learned a lot from their stories and often felt the reward of parenthood. The dining table was the center of the family where we got together, had fun, laughed and cried. We nurtured the love communication among family and family ties.

But those were the days. Recently it's getting more and more difficult for us to sit and talk together at the table. I think you have or had the same problem. Like most Japanese homes, the first one who disappeared from the circle around the table was my husband. He became occupied with his job and couldn't or wouldn't come home from work until late at night. Both social drinking with his colleagues and going golfing on weekends are a part of work, he says. There are not many fathers who give up work for dinner with the family in this society. On the other hand, as my children have grown, they have come to spend longer hours participating in various kinds of activities away from home. Since they have started studying three times a week until late at night at cram school, they seldom see each other at the table. All my family are busy working and studying according to their own schedule. As a result, the large dining table looks very lonely. It has become just a place to quickly eat a meal. Often alone. Family communication tends to be neglected. This is a tiny peep of how it's going to be in the future. I have a premonition of the empty nest.

Sooner or later, all children will be independent from parents. Even if they prefer to be alone in their room, go out with friends rather than with parents, or even refuse their parents' dining table, it's nothing extraordinary. This is the process. We can't stop it. But we wouldn't like to give up and we wouldn't like them to give up the joy of communication with family. There are still many more things we want to share with them. Actually children want to talk and want to be understood, encouraged and accepted. This is

the chance for a family to prepare and redesign a new family circle. There are no stereotypes in this situation. It's different from family to family. At the same time, parents should improve themselves to attract children. If children recognized parents as trustworthy partners, they would be willing to join a circle and talk heart to heart. Then we'll be able to enjoy a new relationship with them, the relationship between adult and adult. My family is trying to build up this relationship at a new family circle.

The family circle is like a harbor where small boats come back and rest their tired bodies and where they regain energy and go out. This is the place where family makes together and grows together. You could say the dining table is a witness of the history of the family.

Communication among family serves as a kind of model for how we communicate with others and how we can have successful relationships. Children brought up in a happy family circle will surely make a larger happy people circle. Because they know the joy of communication and sharing. Let's utilize our communication skills and become a good coordinator of a happy circle.

Oh, it's past ten o'clock. I have to go. My family could be waiting for me at the dining table, in anticipation of a warm and happy family gathering. Would you please excuse me?

論 題 食 卓  
題 目 一家だんらん

カウンスル№8 鈴木成子(柏クラブ)

午後10時。時間が遅くても少しも構いません。我家の新しい団樂の時なのですから。

10年前に買った大きな食卓は、作業台に、勉強机に、雨の日の卓球台に、勿論、家族の食事の場にとよく働いてきました。食卓での会話を通して、子供達は多くの事を学び、私達も親であることの幸せを味わったものです。食卓は家族の中心にあって、家族のきずなとコミュニケーションを育てるところでした。ところが最近では、それぞれが仕事に勉強にと忙しくなり、バラバラに、大急ぎで食事をする場になってしまっています。将来の家族の姿を垣間見る思いがします。子供達が成長し自立してゆく過程で、家族が共に過ごせる機会が少くなるのは止むを得ない事ですが、家族のコミュニケーションの喜びを失いたくありませんし、子供達にも失って欲しくはありません。その為には、家族にあった新しい団樂の場を作り直し、新しい親子関係-大人と大人の関係-を築く努力が必要です。家族の団樂、それは、小さな船が疲れた体を休め、再び出航してゆく港のようなところ、そして、家族で育むところです。そこでもたれる家族のコミュニケーションは、あらゆるコミュニケーションのモデルとなるでしょう。そして、分ち合うことの喜びを知った子供達は、きっとより大きな人の輪を作ることでしょう。

もう10時過ぎました。家族が食卓で待っているかもしれません。これで失礼致します。



論 題 誘 惑

題 目 老いたる女はあらず

カウンスルNo.4 桑原美紀子(ひろしま)

誘惑の言葉の意味を考えてみますと、辞書にはく誘って惑わすこと。悪事に誘いこむことと書かれています。しかし誘惑は、単独で成立する言葉ではなく、必ず相手を必要とする言葉です。改めて自分の人生を振り返ってみますと、時に誘惑を拒否し、時に誘惑に妥協し、また誘惑となれあいになりながら、なんと多くの違った誘惑に囲まれて生きてきたことでしょうか。そうした中で私の人間形成がなされて今日があるように思います。旧満州で終戦を迎えた時、父は行方不明になり母は希望を失って私と妹に死を迫りました。しかし私は生きて日本に帰りたいので死の誘惑を拒否して日本に帰って来ました。それから同じドラマが三回繰返されました。それが私の後遺症となったのでしょうか、人生でゆきづまるとすぐ死にたいと思うようになりました。社会人になった時、山登りを始めました。自然と接することの素晴らしさに感動して、せっせと山登りをしている時、一人の男性に出会いました。その山男からリュックサック一杯の本を借りて読まれた時、その本の重みが、彼の知性の重みであると錯覚して結婚しました。私は誘惑に負けたのです。その人が現在の夫ですが、果して私は本当に幸せになったのかどうか、今だに疑問です。そして60を過ぎた今、鏡をのぞく度に皺が気になり、体型が気になり、お金さえ出せば美人になれる筈の高価な商品に誘惑されそうになります。フランスの古い諺に、老いたる女はあらずという言葉があります。つまり女性は何時までも若々しいという、如何にもフェミニストの国フランスらしい言葉です。また詩人のアルフォンス・カールという人もこう言っています。く女は老令のためにも、また如何なることのためにも死なない。自然は一生のある時期に女を老婆に変装させるが、しかし心の中では、女はつねに若い。女はいつも同じ趣味と同じ快樂と更に同じ愛を持っている。ところが男はどうであろうか。男に年令のないことは、いわずと知れた常識であるく1800年代の女性観ですが、なんと女性の真理をついていることでしょうか。しかし今日の日本女性は、私の前にスピーチなさった横森さんのように、社会の第一戦で活躍されている方々が多くなり、真理はぬりかえられています。私も頑張らなくてははいけません。それで私は老いたる女にならない4つの条件を考えました。

その1) しっかりとした identity を持つ。自分を大切にするためです。その2) 限らない好奇心をもって、興味のあるものは積極的にチャレンジする。その3) 社会でよくいわれる柔軟性つまり flexibility をもって、物事を柔軟に考えられる力をつくる。そしてその4) 私自身が誘惑者になって、実際に体験してみる。以上の4つの条件を大切に努力していれば、老いたる女はあらずの諺どおりに若々しく生きてゆけるのではないのでしょうか。私の好きな言葉に、パスカルの“人間は考える葦である”があります。幸い私も考える能力を持っておりますので、しっかりと4つの条件を大切にしながら、何時までも若々しく仕合せな人生を送りたいと思います。

Subject: Temptation

Title: No women will get old.

The word "to tempt" means, according to the dictionary, to seduce a person and tempt him into sin. As we know, the word "to tempt" is a transitive verb. An object should always come after. As for myself, looking back upon my life by now, as an object of all kinds of temptations, I found that I had sometimes fought against them, sometimes compromised with them, and even sometimes stood aside them. However, the struggles made me what I am today.

I remembered how I had struggled against the trail of death at the end of the war in Manchu, China, presented to me by my mother. All her hope was gone because of the missing of my father. After that, the trail of death came to me three times repeatedly, whenever encountering with deadly difficulties.

I began mountain climbing after I went out to the world. The natural beauty moved me profoundly. Since then I climbed frequently and got a chance to meet a hillbilly. He lent me a sackful of books. The weight of the books gave me an illusion that it was the weight of his intelligence. I yielded to the temptation. The man is now my husband. But am I really happy? I doubt.

Besides, at the age of over 60, I am always nervous about the wrinkles and the bodyline everytime when I look into the mirror. I am about to yield to the temptation of some very expensive goods, which were said to be good for your beauty. There is an old saying in France, "No women will get old." That is, no women will get old or die by any means. The nature will make get old, but she is always young in her mind. A woman will always keep her hobby, her pleasure and her love for long. But how about a man?

Here I would like to present you four points to help you preventing being old.

1. Keep the identity stiffly in order to set a high value on yourself.
2. Keep to yourself an endless curiosity and keep on challenging what interests you.
3. Keep in mind the so-called "flexibility".
4. Be "the subject" of temptation and get the experiences.

Doubtless, you will never get old as the French saying says, and will surely enjoy your life happily and freshly forever.

## 儀 礼 的 決 議 案

1992年5月26日-27日、大阪市ホテル・ニューオータニ大阪におけるITC日本リージョン設立10周年記念大会に集まった会員は、非常に有意義な会合を体験し；そして

この大会の成功は、綿密な計画、心暖まる接待、また、準備とプログラムに携わった方々の献身的な奉仕のお陰であるがゆえに；

日本リージョンは1992年5月27日のこの日、すべてのプログラム参加者、教育セッションのリーダー、スピーチコンテストのジャッジ、エンターテイメントの方々、ホテル・ニューオータニ大阪のスタッフの方々、その他協力して下さった関係者に対し、こころからの謝意を表すことを決議します。更に；

日本リージョン会員は、カウンスル№5とその所属クラブによる大会準備委員会、そして、日本リージョン第10期会長はじめ役員会に対し、起立表決で感謝の意を表すことを決議致します。

ITC日本リージョン 会則・決議委員会



( ITC 会員報告 1992 年 3 月 31 日現在 リージョン: 会則 1991 - 1992 ) 世界のリージョンの会員状況及び規定

Div	リージョン	カ数	クラブ数	会員数	平均カ員数	Reの会員収入推定	米\$換算	年会費	大会登録費
I	コロンビア	5	31	350	11.3	\$ 1,400		\$ 4.00/会員	
	ファウンダーズ	7	44	521	11.8	\$ 1,320		\$ 30.00/クラブ	
	パシフィック ノースウエスト	8	52	634	12.2				
	シェラネバダ	6	30	388	12.9	\$ 1,200		\$ 40.00/クラブ	
	スネークリバー	5	17	210	12.4	\$ 680		\$ 40.00/クラブ ( 2月1日より \$10.00 )	会則 大会登録費 年会費の内の \$10.00
II	グレーシア	4	25	306	12.2	\$ 1,836		\$ 6.00/会員	
	ゴールデン ウェスト	9	51	619	12.1	\$ 1,857		\$ 3.00/会員 延滞金 \$2.50 常規 大会登録費 \$30.00/会員	
	ピークス アンド プレーンズ	8	37	414	11.2	\$ 2,070		\$ 5.00/会員 ( 2月1日より \$ 3.00 )	
	ターコイズ	7	40	534	13.4	\$ 1,602		\$ 3.00/会員	
III	ディキシー	4	16	201	12.6				
	ハートランド	5	27	310	11.5	\$ 945		\$ 35.00/クラブ	常規 大会登録費 年会費の内の \$10.00
	ランド オ レークス	8	41	510	12.4	\$ 2,050		\$ 50.00/クラブ	
	レッド リバー	3	26	334	12.8	\$ 520		\$ 20.00/クラブ	常規 大会登録費 \$ 15.00以下 / 会員
	リオ グランデ	4	34	438	12.9	\$ 2,190		\$ 5.00/会員	常規 大会登録費 \$15.00 延滞金 \$5.00
IV	ブルーリッジ	9	72	931	12.9				
	カヌーサ	5	32	415	13.0	\$ 2,555		\$ 15.00/クラブ+\$ 5.00/会員	会則 大会登録費 \$ 15.00/会員(8月1日)
	コロニアル	4	21	311	14.8	\$ 1,042		\$ 20.00/クラブ+\$ 2.00/会員	会則 大会登録費 \$ 25.00/クラブ
	グレート レークス	6	47	576	12.3				
	ミッド アメリカ	5	30	422	14.1	\$ 2,166		\$ 30.00/クラブ+\$ 3.00/会員	会則 大会登録費 \$ 20.00/クラブ(8月1日)
	サンシャイン	6	28	292	10.4				
V	グレート ブリテン	5	26	415	16.0	£ 2,075	\$ 3807	£ 5.00/会員	
	アイスランド	3	21	317	15.1				
	サザンアフリカファウンダーズ	5	31	444	14.3	R 4,977	\$ 1843	R 8.00/会員	
	トゥーオーシャンズ	4	28	480	17.1	R 8,640	\$ 3200	R15.00/会員	
VI	オーストラリアン フリンダーズ	5	31	475	15.3	\$ 7,125	\$ 5397	\$15.00/会員 延滞金 \$1.00	
	オーストラリアン パシフィック	11	76	1,072	14.1	\$16,080	\$12181	\$15.00/会員	
	日本	8	65	1,687	26.0	¥6,748,000	\$51907	¥4,000/会員	
	ニュージーランド	14	87	1,347	15.5	\$13,470	\$ 7203	\$10.00/会員(+ GST )	
	合計		1,065	14,953	14.0				

カウンスル: オーストラリア (6-143-23.8)、ギリシャ (14-300-21.4)、オランダ (14-282-20.1)、 ( ) の数字はクラブ数-会員数-平均クラブ会員数を表す。

ジンバブエ (6-108-18)、単独設置クラブ (9-117-13)、

総クラブ数: 1,114 総会員数: 15,960

注: 1992 年 オーストラリアカウンスル+オランダカウンスル+ベルギー+ルクセンブルグ+ノルウェーがヨーロッパ 92 リージョンを新たに編成。

# 第10回リージョン大会 スナップ



会長入場



会員代表挨拶



受付



R M T



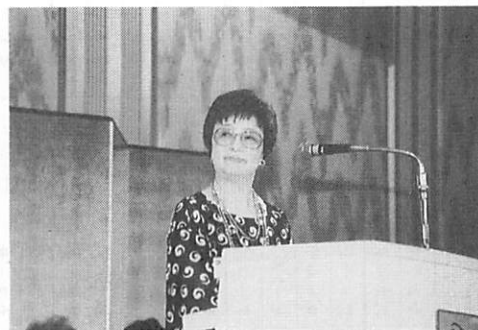
ビジネスセッション派遣員席



10周年記念式典



スピーチコンテスト ジャッジ



新会長就任挨拶



インスタレーション打ち合わせ



エンターテイメント



クロージングソウト



次回は京都へ



## 大会を終えて

大会コーディネーター 石本美知子

2日間にわたったリージョン大会も終わりに近づき、コーディネーターの謝辞を述べるため壇上に上がった私は、もう万感胸にこみあげて言葉にならないほど興奮していました。

うまくスムーズに会が進行するだろうか？ ぽっかり忘れてしまっていることはないかしら？ そんなことばかり考えて心配と緊張で眠れない日々もありました。

でも今、たいした支障もなく無事大会の幕がおりようとしているのです。

私は、またしてもこみあげてくる熱いものを飲みこみながら、ただ“みんな有難う、有難う”と頭の中で繰返していました。

ほんとに、わたしのまわりのすべての人達が、この大会にむかって一生懸命心を一つにして準備して下さいました。

どうしたらいい大会になるだろうか、そればかりを考えてきた1年間でした。

そして今、とにかくわれわれはそれをやり遂げる事ができたのです。

「あなたが泣くなんて」とみんなに不思議がられたけれど、それは今までの長い人生であまり涙をみせたことのない強い？ 私の貴重な涙であり、この素晴らしいプレゼントを私にくださったITCとカウンセルNo.5の皆様に感謝いたします。

## 瀬戸内クラブ



ばらの美しい街福山は、福山駅のすぐそばにお城のあることでも知られています。お城の真下に美術館、博物館があり、城下町の面影を近代的な姿でとどめています。福山は瀬戸大橋から西へ車で50分。人口30万人の繊維、商工業都市。奈良時代栄えた港町の浦は、仙酔島、弁天島が浮かぶ美しい瀬戸内海にあります。「春の海」（宮城道雄作曲）は、ここから生まれました。

瀬戸内クラブは、'92年2月7日、本部より認証され（#3545）日本では65番目のクラブとして誕生。カウンスルNo.4では8番目。福山では、二つ目のクラブです。

テーマは「愛の輝き」現代の私達の共通の願いは「幸せに生きたい」ということではないでしょうか。素直な心、さわやかさ、ほほえみ等人と人の心が触れ合った時、この上ない喜びに満たされる幸せ、それは愛の極み、最高のコミュニケーション、日本も90年代は心の時代といわれる。

ソ連の8月革命、誰一人予想もしなかったソ連邦の崩壊は、世界を揺るがせました。今、世界は、かつてない速さで変革しています。日々変化し続けています。このような情勢の中で、時代の流れにとり残されないためには、私たちに、三つの要素が求められます。

1. 素直さ。
2. 楽天発想。（プラス発想）
3. 絶えざる勉強。

愛の精神を基盤にITCの勉強が、家庭、職場、学校活動、奉仕活動、文化活動など時代の要請に応じて活用されるよう、メンバーの活躍を願っています。

瀬戸内クラブ会長 三村悦子（カウンスルNo.4）#3545



## 刈谷クラブ

今年のテーマ「見つけよう知らない自分」をモットーに、ITCを通じて自分の新たな一面を発見し、常に隠れた自分を見つけ、一人一人の能力を充分に発揮できるような、刈谷クラブに成長して参りたいと思います。

意義ある第一回の例会は、心に残る充実した例会にと思い、弘法大師の徳と教えを忍んで全国的な名利、三河三弘法第一の根本霊場にて行いました。プログラム委員の企画が見事に成功し、全員参加を意識付け、常に新鮮で、季節感のある例会に、心がけたいと思いました。横井住職の法話は感銘を与え心を打ち、充実感のあるものでした。

皆様のお蔭で、チャーター式典も無事終了し、会員の反省会もできて、良い例会となりました。皆様の、厚いご支援をお願い致します。

刈谷クラブ会長 市川文字子（カウンスルNo.1）#3546

おねがいします。



### とっとり砂丘クラブ



皆様、始めまして。美しい自然と良い環境に恵まれた、鳥取県鳥取市に誕生した『とっとり砂丘クラブ』でございます。ITCの仲間入りをし、皆様とご一緒に勉強できますことを、大変嬉しく思っています。初めてのことばかりで、分からないことが多い状況ですが、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

それでは、クラブの紹介を致します。現在では、一番新しいクラブで、カウンスルNo.7に所属します。10年の歴史を持つベテランの『鳥取クラブ』のご指導を受けて、今年の1月の模擬例会からスタートしました。例会、チャーター式典にと皆で一生懸命頑張っています。只今の会員数は28名です。若いミセスが多く、年齢層は30代から50代です。中には、子育てに忙しい人もいます。

バード・ウォッチング、料理、お花、お茶、洋裁、音楽鑑賞、読書、ゴルフ、テニス、旅行、食べ歩きと、会員の趣味はいろいろです。クラブのイメージは明るく、活気に満ちています。

さて、メンバー全員に1つの共通の思いがあります。それは「ITCで、頑張っていこう」ということです。今まで気付かなかった自分を発見し、自己を変え、家庭・職場、社会で生かしていけたら……。そして、心が豊かになれば……。希望を胸に、皆で手を取り合って、一歩ずつ、しっかりと進んでいきたいと思えます。

とっとり砂丘クラブ会長 石破佳子(カウンスルNo.7) #3551



### 鴨川クラブ

一雨ごとに紫陽花の花びらが一段と鮮やかに咲き乱れる頃となりました。京都は毎日暑い日々が続いております。皆様方をお健やかに過ごしのことと存じます。

私達「鴨川クラブ」も皆様方のお仲間入りをさせて頂くことができました事とても嬉しく存じます。会員数27人でスタートいたします。新しいメンバーですので明るく楽しく頑張っております。増設委員の方々の温かい御指導の御陰で「カウンスルNo.6」に所属させていただき運びとなり、認証式典に向かって全員力を合わせて日夜努力を致しております。

私達クラブのメンバーは京都の中心部を穏やかに流れております鴨川の周辺に住んでいる方が多く、四季折々の織りなす鴨川の辺りの風景は私達の心を和ませる、そんな鴨川の名に恥じない様なしっかりした基礎を築き上げる事を願い、素直な気持ちで自分を見つめ、そして皆様方に少しでも早く近づける様に努力してゆきたいと願っております。

例会は京都駅の近くのタワーホテルで行っております。今後共皆様方の温かい御支援と御指導の程よろしく御願い申し上げます。

鴨川クラブ会長 中村慶子(カウンスルNo.6) #3552

????????????????

## Q & A

????????????????

Q. 日本リージョン会則 第9条 委員会とその任務 B.項 常任委員会の任務

3. 予算・財務 の項に対して質問します。

「予算・財務委員会は、次期会計年度の予算案を作成し、8月1日までに役員会に提出し10月15日までに承認を得る。」

この項の役員会……この期の予算・財務委員会の所属する役員会は次期役員会ではない。次期であれば、組織上の役職者違反となる。

10月15日までに承認を得る……前期予算・財務委員会が10月15日まで委員会組織を解除されないのは不自然である。

前期委員会が次期役員会方針を組み入れ予算を計上することは、役員会任務移行の違反行為になりかねない。

ちなみに、ITC会則の予算案は、次年度の予算案を作成し提出するが、期限は明記されていないため、次年度の予算案を今期役員会に提出すると解釈する。

常規に対するリージョンの見解を明示してください。

[質問理由]

- ・提出する役員会がいずれであるかの明記がほしい。
- ・一年間その期の予算・財務委員会が何もせずに、来期の予算案作成をする矛盾。
- ・ITCの会計年度と合致させる。
- ・委員会に質問しても前期委員会が作成したものとして責任を持たないとの回答をされる。

A. \* 「予算・財務委員会は次期会計年度のリージョン及び事務局の予算案を作成し8月1日までに役員会に提出し承認を得、会報第1号に掲載する」(日本リージョン会則第9条B項3)

1991年6月の大会で「10月15日までに」は削除され現行会則は上記のようになっています。役員任期は、「会計年度の期首である8月1日に任務につき、任期は1年……」(会則第5条F項1.)と記述されていますので、全てレポート提出先の役員会は、提出の日付に成立している役員会と考えます。役員会は7月31日を最終日として次の会計年度の役員会に引き継がれますので、8月1日には予算案の承認を含めて新役員会に責任は移行されることになるかと理解しています。

\* 予算作成の時期は仕事の性質上、期末と期首に跨がることで予算・財務委員会の活動が次期予算案の作成となるのは不自然なようですがやむをえない事とも考えます。委員会が年間の支出状況をよく調べた上で予算案を作成し、役員会がその承認に当たって新年度の新計画があればそれを盛り込むよう修正することも可能ですし他の常任委員会の活動計画に沿った予算請求があればそれもこの段階で考慮することができます。

しかし、もし更に良い方法がありこの手順の変更を望まれるならば、その具体的な方法を会則修正案として提出し、会員にそれについて考える機会を与え、会員の最も納得のいく手順の採用を提案されるのも如何でしょうか。

\* ITC会則では、予算・財務委員会は常任委員会から削除され(1991年7月の世界大会で採択)現行の本部予算案はExecutive Directorが作成しています。

\* 予算案は委員会作成のもので、役員会が承認し会員に呈示するものですから責任の所在は役員会です。もし何か疑問を持たれた場合は役員会に提出してください。役員会は会員の質問には誠意をもってお答え致します。

Q: 江藤 万理子(関西クラブ)

A: 日本リージョン議会議法規役員 小林 令  
日本リージョン役員会

## 編 集 後 記

- ♡ みちのおわったところでふりかえれば、みちはそこからはじまっています  
ゆきついたそのせなかが かえりみちをせおっている  
でももどりたくない もっとさきへ あのやまをこえてゆきたい たとえまいごになっても  
まぼろしのように うみなりがきこえてきます もういっばまえへでれば  
そこはきりぎしのうえなのでしょうか (谷川 俊太郎 詩集より 「みち」)
- ♡ 一年間、沢山の原稿とお励ましをいただきましたメンバーの皆様、常田会長をはじめ役員会  
の皆様方、本当にありがとうございました。  
皆様のご協力なしでは、ここまでくることはできませんでした。  
今後も変わらないご援助を編集におむけください。
- ♡ 表紙のいろ、皆様の予想は当たったでしょうか？ 真夏に咲き誇る“ひまわり”のイメージ  
です。いろ合わせにはとても苦心いたしました。

編集スタッフ：秋山美代子 市川道子 渡辺淳子 川染厚美

会報発行者：ITC日本リージョン  
印 刷：インタイプセンター

Our New Clubs:

KARIYA - SETOUCHI

TOTTORI SAKYU - KAMOGAWA

I  
never knew  
what I  
could not do.  
So, I was  
willing to  
try  
anything.